

第6回「第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画」策定作業部会議事録

1 日 時 令和2年8月27日(木) 10:00~11:55

2 場 所 アクロス福岡 606 会議室
(福岡市中央区天神1丁目1番1号)

3 出席者(敬称略)

・作業部会委員

	氏 名	役 職 等
部会長	小 出 秀 雄	西南学院大学 経済学部 教授
	平 由以子	特定非営利活動法人 循環生活研究所 理事
	田 中 綾 子	福岡大学 工学部 教授
	中 山 裕 文	九州大学大学院 工学研究院 准教授
	久 留 百合子	(株) ビスネット代表取締役/消費生活アドバイザー
	松 藤 康 司	福岡大学 名誉教授

4 会議次第

1 開 会

2 議 事

- (1) オブザーバーからの意見聴取について(非公開)
- (2) 事業者ヒアリングの結果について
- (3) 「第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画」素案について
- (4) 今後のスケジュールについて

3 閉 会

5 議事録

議事(1) オブザーバーからの意見聴取について(非公開)

議事(2) 事業者ヒアリングの結果について

【事務局】

(資料2について説明)

【部会長】

ありがとうございます。それではこの事業者ヒアリング結果について、ご質問、ご意見が
ございますでしょうか。

【委員】

小売飲食業のところなんですけれども、やはりそうだろうなと思いましたがけれども、でも
例えばこれを行政が個別に全部指導していくなんてことはとても難しいので、やはりそこ
のビルの管理者のところオーナーとしての責任ではないけれども、そういうことをやっ
ていかないと、それはお願いベースになるかもしれないんですが、でもやはりビルをオー
ナーとして持っているとか管理しているところは、それだけの責任があるということでやっ
ていくほうがいいのかなというふうに思うんですけど。現実には、難しいですけどね。

【事務局】

ESGとか含めて、企業の社会的責任みたいなものを前回までもこの会議の中でも言われて
いると思いますので、そういったところにうまく訴えかけるような話ができたらいいの
かなと思っています。

【委員】

各テナントの現状把握は多分難しいと思うんです。けれども啓発ということでは、そこに
手伝ってもらうとか責任を持ってもらうというところは、多少これからやっていってもい
いんじゃないかなという気がします。

【事務局】

わかりました。ありがとうございます。

【部会長】

ほかはいかがですか。

【委員】

やはり啓発という意味では、ずば抜けているスーパーの業者とかお手本みたいどころ
があるのが、企業間では一番の啓発になるのではないか思っていて、福岡が本店のスーパー
とかに特に福岡市が力を入れて、例えば委員を使ってアドバイスしてアイデアを練るとか、
そういうふうにして牽引するような、一歩引いて事業者が勉強して学ぶのを傍観している
だけでなく何かそんなふうにするとか。

例えば今度、福岡市のほうに入ってこられる業者さんがSDGsに関して相談とかを私のほ
うにもされてきたんですけど、やはり給水スポットを付けたらペットボトルが減るとい

話をしたら、給水スポットを付けますとおっしゃるんですね。

だから新規事業者で福岡市に入ってくる分に関しては、事前にインフラ系に入れられるものはできるだけ努力して入れてもらうとか、そういうことがごみを減らすとかリサイクル率を高めることに直結すると思います。ですので、何かしら新しい動きを環境局のほうで少し考えられたほうが、リサイクルも予防からと言うんですけど、事業も予防からのほうが早いから、病気になる前にそういった仕組みを試してもされたらいいかなと思います。

【事務局】

福岡において先進的なそういう取り組みは、ちょっとスーパーではないんですけども、今回、環境行動賞、今年は表彰式ができなかったんですけども、大賞で JR 博多シティさんを選ばせていただきました。

【部会長】

ずばぬけてすごいですね、あそこは。

【事務局】

やはりずっと福岡に根付いていらっしゃるところでもあり、かつ、ああいう大型テナントでしっかり分別の指導もしていただいて、ほかにもいろんな環境の取り組みをやっているということで、まずそこは大賞にもなった旗頭として、それと同じことが小さなスーパーでできるかという、そうでもないかもしれないですけど、そういうところでフィーチャーして広報していこうかなと思っているところです。

【委員】

横展開しやすいサイズのことを反映させるという。JR 博多シティさんは何がいいかと言ったら、あその前でイベントに入る時のイベント業者に啓発にされてるんです。規制がかかったり可能なものが増えてたりとか、給水スポットをそこでも検討してもらう時も割と前向きだったりとか。

【事務局】

そうですね。そういうところは意識が高いかなと思ってます。

【委員】

要はイベントにする時の先の先を見据えて、こういうことができるイベントスペースだとか、そういうことをもうちょっと前倒しでやっていったほうがいいと思うんですけど。

【事務局】

ちょっとご意見いただいているところも踏まえて、環境局としてそういう意識がないわけじゃないんですけど、なかなかそういう企業さんとの接点がなかったりするんで、引き続きやっていかなければいけないと思います。新しいところが入った時に営業をかけるというのは、事業系ごみ減量推進課でやっています。

【事務局】

ああいう商業施設が建つ時って、大店立地法の届け出が必ず出まして、事前の説明会であるとか出展者説明会といったものがあるので、その際にはうちのほうが必要出席して、例えばスーパーさまが各テナントで入る、メインテナントで入るとすると、店頭回収のことであるとか食品リサイクルのことであるとか、いろいろ資料を見させていただいて、もうちょっとこういうところが足りないのだからこういう取り組みをお願いしますとか。

ただ、そこはあくまでも義務ではないんです。義務ではないので、結局先進的な取り組みと、あと企業のCSRとか、そういったところでこういう取り組みをして表に出していただいとお願いして、一部実現しているところもありますが、なかなか今のコロナの状況とかで、企業として取り組むのはここまでですというところが。

逆に、例えば古紙の分別義務化が始まりますので、去年ぐらいからのものは、こういったことで来年の10月から始まるので資源物置き場はちょっと大きめに取って、ちゃんと取り組みを進めてくださいとか、そういったところで義務化されて自分たちがしないといけなくなるんだったら、じゃあ取り組みますみたいなのところもある。そこをどう前向きなところで、先を見越した形を取らせるかというところで。

うちも困っているのが、店が立ち上がって動き始めてしまうと、新しい取り組みをお願いするのが非常に困難になってくるんです。ですので、こういった大店立地法とかだと出店前のこういう状況の時に、こういうことというメニューは提示させていただいて、お願いはしているところです。

【委員】

私たちはすごい忙しい中で時間を取って来ているってことは、やはり役に立ちたいと思っているので、そういう企業に提案する時の内容とかを、ここで相談したほうが有効だと思うんです。どんなことを提案するかとか、ちょっとそんな感じがします。

【委員】

今話に出てるように、大店立地法とかいろいろあるんだけど、強制力がない。だから何かりサイクルについても、「考えてます」ぐらいの回答なんです。

だから今の時代に合った、内容を付加するような取り組みをしないと、ほとんど止めるということではできないんですね、ほとんど決まっていますので。だからそこで例えば、「リサイ

クルの施設とかごみに対する検討をしておりますか」と言ったら、「検討しております」という回答なんです。具体的に聞くところまで、質問事項がないんです。

だからそれをちょっと例えば福岡市用の、突っ込んだような、そういうふうにしないと多分届け出を持ってきても、ほとんどこっちが質問していることに対して「そのとおりやります」というので終わりなんです。

【委員】

ということは、ヨーロッパとかの最先端とか、進んでいる施設の技術をここで知っとかないといけない。

【委員】

それとヨーロッパじゃなくても国内でも、結構スーパーマーケットで先取りしているところがあるんですね。そういうのを少し情報を集められたりすると少し踏み込んだ質問とかできるかと。

【委員】

全国展開のデベロッパーさんがSDGsをどれだけ推進するかとされているところは、例えば福岡で成功すれば広がるので、本当に頑張られたら何か成果が出ると思うんです。

【事務局】

そうですね。大型開発の場合は、そういったデベロッパーさんの会社としての方針とかがあるので、その方針でこういう食品リサイクルに取り組みますとか、こういうことをしますというの、条件を提示された上でテナントさんを募集されるとか。

そういった形を取られてるところがあるので、そういったことが浸透してくれば、いろいろ出店計画をされてる中でも、そういう環境に配慮した取り組みをしないと、自分たちが入りたくても入れないというようなところ、事前に受け手側でシャットアウトするということも当然出てくるでしょうし。

あと、大店立地法の話で言えば、届け出がある際に、まだどこが入居するか分かりませんというのがあって、だから分からない中で、こういう準備をして募集されてくださいというアドバイスはさせていただくんですけど、それがなかなかマッチング、ちょっと情報収集がうちうまくいってない部分もあったりとかするので、事前になるべくそういったところで取り組みを進めていただこうとは思っています。

【委員】

もう1ついいですか。今事業者の方とやりとりしてると、素晴らしい方針を打ってるけれども、最後になったら「オーナーに」と言うでしょ。

するとそのオーナーは、学生のアルバイトとかいろんなアルバイトを使ってやってるのが多いですよ。そこに対して研修とかを具体的にやってるのかというのを本当は聞きたかったんですが、多分あまりやってないんじゃないかと。時給いくらかが問題であって、クオリティーというかその辺りは、かなり入れ替わりが激しいので、せめて店長だとかサブ店長ぐらいは定期的にそういうことをしないと、せっかくいい方針を持って戦略を持ってのけれども、何か徹底してないんじゃないかなという気がするんですね。

【部会長】

学生のバイトの視点のほうがすごく厳しい時があって。リモート授業で課題を毎回出して、そうするとやっぱり何人か居酒屋でバイトしてるとかコンビニでバイトしてて、「こういう業務があって、こういうのはすごくもったいないと思う」とか、結構書いたやつがくるんです。オーナーさんがそういうのに気付いてるかどうかは、また別問題だから。学生目線というのはやっぱり重要ですよ。

【委員】

ここの費用負担感がかなり高いと言っている人たちというのは、何が高いと言ってるんですか。例えば、リサイクルする時のその費用が高かったり、何をもって高いと言ってるんですか。

【事務局】

基本的に「ごみ処理費全般」という回答で高いと。だからリサイクルが高いと言ってるわけでもない。ごみ処理にかかる費用が高いと言っています。

【委員】

妥当と言ってるところが1件、2件だけあるんですね。ごみの量が結構少ないような気がしてるんですけども。

皆さんそれで、補助金が欲しいねと言う人ばかりですので、そこら辺の宣伝として、こういうことをやるとごみ処理費用が出来ますよというところが、1つのインセンティブになるかなという感じがしたんです。やはり何かがないと動かないですよ。自分とこの利益とかそんなのにつながらないと。

今回の事業者の方もそうでしたけど、みんな業者もそうなんですけれども、国が法律を作って、ある程度こういうことをしなさいと言ってお金を取るようになっていたから、せざるを得ないというところでやっているんだと思うんです。

だからそういった面では、あまり積極的にやってないよねという感じはします。

なのでやっぱりメリットとか何かその辺りを、非常に重視しているような感じは受けませんね、このアンケートについては。自主性というところはあまり見受けられない気がする

ので、そこら辺をどうするかというところを考えないといけない。

【部会長】

ご意見ありがとうございます。

それでは、次に議事3の「第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画の素案について」、事務局から説明をお願いいたします。

議事（3）「第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画」素案について

【事務局】

（資料3について説明）

【部会長】

ご説明ありがとうございます。では、今のご説明についてご意見、ご質問等をお願いいたします。

【委員】

全体の計画期間を10年と言われて、下に5年ごとの実行計画と表に書いてますね。これは新しい内容なので、ちょっとゴシック文字かなんかで目立つようにしたほうがいいかなと。

それから、1つは天神ビッグバンを今やっていて、5年後というのはちょうどそれが動き出す頃です。現計画を検討した時に、増えるだろうというのは見てただけで、新幹線が鹿児島から通るということがこんなに大きな影響があるというのは、見込めなかったので、天神ビッグバンはテナントを含めたがとところが多いですから、その辺りを少し情報を集めていただいて、先ほど議論になったようなところもどれくらい出るかというのを予測しておかないと。新計画は5年ごとに見直すからいいんですけど、ちょっとその辺りも少し情報を集めてほしいなど。

それともう1点は、毎年のように風水害が起きていますので、それをどこかに入れたいほうが。いつも言っていますように、今までは、福岡市はよその自治体に対して協力するということだったんだけど、ひょっとしたらお世話にならないといけないかもしれない。

というのは、ちょっと思っているのは天神界限あるいは六本松も随分開発されましたね、博多駅も。しかし雨の降り方が全然変わってきていますので、あれが1つ間違えれば地下にどっとくる可能性があります。ハザードマップはあるかもしれないけど、それ以上に降りますので、その辺りもどこかに入れておいていただいたほうがいいかなと。

毎年ですよ、本当に局所的に雷が起きて大雨が降っている。あれが1回六本松に来れば、六本松辺りの駐車場なんか一発で浸かってしまいます。そういうのもこの中にまだ十分

反映されていないんじゃないかなという気がしたんですけど。

【部会長】

ありがとうございます。

今泉やあの辺りは、以前ゲリラ豪雨で冠水して、元々あそこは肥前堀というのがあったから水に浸かりやすいんですけど、あのあとは排水を強化したんですって。

【事務局】

博多駅周辺がかなり水没したところもあって、そのあと博多駅のレインボープランというのができて、山王公園の下に調整池を造っています。同じように天神もレインボープランをやっていて、大規模な地下の排水管を入れたりする工事をやっています。ちょっと前まで今泉公園がずっと、立て坑といってトンネル掘りの基地になったりとかしているんで、そういったところを今やっています。

【委員】

例えばこの2年間くらいで、時間降水量が120ミリとか、今までは90ミリとか100ミリは何十年に1回だったけど、毎年みたいに、多い時には1年に2回くらい来ていますよね。

【事務局】

おっしゃるとおり、想定して計画を立てている時には50年に1度とか100年に1度とかというのが、もうどんどん来るようになってきて、それを止めることはできないので、いわゆるハザードマップとか、適応的な感じでやっていかざるを得ないのかと。

【委員】

私も先ほどの意見に賛成というか、付け加えたいんですけど、今、特に天神はビックバンでそれこそどんどんビルが建ち、そしてほとんどオフィスになると聞いているんです。

そうなってくると事業者がコロナで田舎にとか言いながら、やはり福岡くらいのところに集まってくるんじゃないかなという気がするんです。本当の田舎に行ける企業はそんなにはないと思うので、そういう意味では意外と人口の伸びというのも予測されているのが当たっているのかどうか。そういうふうにはオフィスができることによって、やはり仕事があるところに人は集まってくるので、そういう意味では意外と事業所の数とかその関係のごみというか、その辺りはもうちょっと考えておいたほうがいいかなという感じがします。

大体オフィスの数がどれくらいできるかというのは、多分予測がつくと思うんですね、今できているビルのあれからすると。そういうところから推計して、どれくらいごみが増えるだろうかというところは、やってらっしゃるかもしれないけど、意外に多いんじゃないかなと。そこにまたある意味、住んでいるのは例えば春日とか大野城だったりするかもしれない

けれども、交流人口じゃないけれども、昼間そこに来てごみを出すという人たちが出てくるでしょうから、そういう意味での予測というのがもうちょっとあってもいいのかなという気がします。

【事務局】

天神ビックバンで開発が広がって行って、延べ床がどれくらい増えますというのはある程度把握はできていて、延べ床が増えることによってごみ量がどれくらい増えるというのもある程度は把握できます。けれども実際はそれ以上、おっしゃられるとおりの、人口の流れがそれ以上になったりすることも考えられますので、そういう意味でもこの5年間で1回見直せるという計画を立てているのは、ちょうど天神ビックバンが終わるタイミングでもありますのでいいのかと思っています。

先ほど言われたように、コロナの関係もそうなんですけど、コロナもどれくらい影響が続くか、今のところなかなか見通せない。研究者によっては数年かかるみたいなどころもありますけど、そういった意味でも計画としてはこういう5年間で1回見直すという計画の中で進められるというのは、非常にタイミングではないかというふうに思っています。そういった実情を踏まえた上で、しっかりと判断できるように進めていきたいと思っています。

【委員】

データを取っていく時期とかも影響しますよね。

【部会長】

コロナでどれだけ海外の人が来ない期間があるのか。昨日たまたまマリンメッセ辺りを歩いていたら、連接バスでも運転手以外誰も乗っていないのですよね。それでマイナスがどれだけ続くかというのも予測がなかなか難しいですかね。

【委員】

ちょうど今年は、ゼロということはないんだけど交流人口がほとんど減りましたよね。そうすると本当の在住の福岡市民のごみの原単位が出てきます。これに、昼間人口と交流人口が加わってどれだけ増えていくか。

人口は増えながらまだ横ばい状態だから、本当は市民1人1日あたりのごみの原単位は減っているんです、実際は。本来はそれ以下に減らさないとという計画だったんですが、それがどうもうまくいかなかった。まさか1万人も毎年増えるとは思ってなかったし、交流人口がこんなに押し寄せてくるというのも、あの時はまだ情報がなくて、まだこれから増えることは増えるけどこんなに多くとは思っていなかったんです。それが特に福岡はもろに影響を受けているから、非常に予測するのは難しいなと思います。

【事務局】

実際、人口的なところでいくと、先ほど説明させていただいたんですけれども、8年前倒しで160万人と予測を上回っているんですね。今、まだ市の総合計画を改定するというのは特に今のところないので、改めて推計を補正する形でさせてもらっても、やはり伸びるのは伸びるんです。多分コロナがあっても、減ることは多分ないので伸びる。

ただ、ごみの減量計画という形で当面10年間となったら、やはりこれまでどおりしっかり人口が増えていっても、まずは1次推計で何とか横這い、微増くらいでいっています。

あとは本当にこれからやっていくごみの減量計画の中で、それでも多分ドラスティックに減ることはないんじゃないかと思います。やはり計画ですから、ビジョンはもっと高くてもいいんですけど、現実的にやっていかないといけないのかとは思っています。

【委員】

コロナで使い捨てが増えているのを、容認しないとイケなくなっているじゃないですか。そういうのがあって、このプラスチックのところを使い捨ての削減とか減らすみたいなことが入っていないのか、その辺とか少し話したいなと思っていました。

【事務局】

以前も施策の方向性の話をした時に施策の大枠を踏まえた上で、プラスチックのそもそもの考え方の基本は発生抑制が当たり前があって、その次の段階でリサイクルできるものをリサイクルしていくという流れになるかと思っています。

今回コロナで使われている使い捨てをどうやって減らすかというのは、なかなか難しい問題があって、しかもそれが食品の包装なので、リサイクルも結構難しい。要は食品が付着しているものなので回収も難しいですし、それを分別して資源化するのもすごい手間がかかるということがあり、なかなか難しいところがあります。

新しい生活様式の中で、そういう使い捨てをどうやって減らしていくかというのは、やはり今後進めていけなくちゃいけないので、そこは施策の中でどう取り組むか。コロナの影響がどのくらい続くのかみたいなのところも含めて、考えていく必要があると思います。

【委員】

使い捨てをあきらめちゃうと駄目だと思うので、こういうところも一言でもいいから出してほしい。ヒアリングの時も思ったんですけど、有機物でできたからいいのじゃなくて、それを捨てることのほうが問題なので、そこをもうちょっと分かりやすく出していく。それを値段が高くなって、食べ物を使って容器を作ったからいいとかじゃないですもんね。資源をどれだけ長く大事に使って、負荷を減らすか、そこなんですよね。

【委員】

難しいですね。生活の中で実際に例えばスーパーとか何かでも、お惣菜とか何かで前はバイキングみたいな形で入れていたのを、今パッケージに全部してあるから、すごいゴミが出ますよね。そういうふうな今のコロナもあるんだけれども、やはり簡便にとか衛生的にというところ。そういうのを現実の生活の中で、使わなくていいですというのは分かっているんだけれども、使わざるを得ないというところをどうしていくのか。

だから、ある意味今できるのは素材の問題とかりサイクルですけど、そういうパッケージになるとリサイクルできないから、じゃあ素材の問題なのかとか。やはりその辺を現実的に考えていきながら、将来どう考えるかという視点が必要かなという感じがするんです。

【委員】

でも、考えてますよということを、やはり何か言葉として出したほうがいいと思うんです。パッケージを生分解性にするよりも、パッケージフリーのほうがいいんだけど、それでは商業ベースじゃ成り立たないから、じゃあどうするかという話し合いをしたほうが。

【委員】

本当に理想から言えば、お鍋を持っていくとかタッパーを持っていくとか、量り売りをすればいいんだけどと私もいつも思うんです。

【委員】

洗剤とか食べ物じゃないやつは量り売りを。

【委員】

そこはできてくるでしょう。

【委員】

だから何に力を入れるかです。

【委員】

今回の議論の話は、1次推計のベース係数をどう設定するかということだと思うんですけど、先ほどおっしゃられた経済の今後の推計とか福岡がどういうふうに進展していくとか、あるいはコロナによって人が集まってくるのか、事業所が本当に集まってくるのかというのは、誰にも分からないと思うんです。

なので、もしかしたら全然、GDPが今下がってますけど、こういう傾向でゴミも多分GDPに引っ張られると思うんですけど、その後の2次推計の本当に施策を加味した場合の推計を比較するベースがうまくいってないと、多分意味がない。今回見直している状況と同じこ

とがまた起きてしまうと思うので、ここは非常に難しいと思うんですけど、コロナで転換点がきてて、誰も次の方向が見えない中で、こういうふうにかちっと決めてしまっているのかどうか、ちょっと僕は疑問に思っています。スケジュールの都合もありますので、もし本当にきちんと決めていかないといけないんだったら、いくつかパターンを準備して、どっちかに切り替えられるような準備もしておいたほうがいいんじゃないかと。

【部会長】

2パターンぐらい。

【委員】

よく中位推計、高位推計という捉え方がありますよね。それを少し考えたほうがいいんじゃないかと。今は多分これはかなり鉛筆なめながら、大体これくらいかなみたいな感じの設定になっていると思うんですけど、今後どう動くかが見えてこないの。

【事務局】

ベースとしてはこう動いていくとして、先ほど言われたのは将来予測の関係ですので、先ほどもコロナの影響がどこまで続くか分からないというので、2次推計の中で幅を持たせるという考え方もあるのかなと思っています。

【委員】

でも2次推計というのは、あくまでごみ減量施策を評価するための推計ですよ、事業とか。

【事務局】

ただ、今回の場合は非常に言われるとおりに難しい状況ですので、もしそこまでの影響が出るとすれば、コロナの影響まで踏まえた形でやる必要があるのかなと思っています。減量施策だけを評価して2次推計をするというのも非常に危険だとは思っています。

【委員】

そうすると、ここに書いてある2次推計の定義を変えないといけない。

【事務局】

そうですね。すみません。ここはしっかりと盛り込めていないです。

【部会長】

昨日も県の食品ロスの会議で、県も基本計画を作るという時に、今のデータを使って本当

にいいのかという意見が出ましたけれども、全く同じですね。

【委員】

だからよくリスク評価の時にシナリオ 1, 2, 3 とか、この間もちょっと言ったように幅で、これがこういうふうにあった場合とか、コロナの影響はこの2年間くらいで終わって順調に進んだ場合はこうなると、そのほうがいいかなと思って。

だけど、よくごみの焼却のカロリーの時も、平均値と高位と低位と3つで書くわけですね。とにかくそれよりも最高になる時はかなりしんどいから、炉も駄目になるからということでかなり抑えようとするわけですね。そういうほうが、今回の計画からすると、一番最初にこれがスタートした時はコロナの話なんか誰もしていなかった頃ですから、しなくていいかなと思ったけど、今回ぐらい経済が落ち込むと皆さんやりにくいと思うので、できたらシナリオ1, 2, 3くらいで、今言っているような形でするのも、皆さん理解してくれると思うんですね。

【部会長】

いろいろご意見いただきありがとうございます。今のところ素案ということで、こんな感じで書き出していますということなので、いろいろまたこれから時間も限られている中で詰めていくということで、引き続きよろしく願いいたします。

それでは、議題4の「今後のスケジュール」について事務局から説明をお願いいたします。

議事(4) 今後のスケジュールについて

【事務局】

(資料4について説明)

意見なし

【部会長】

それでは本日の議事は以上となります。進行を事務局のほうにお返しいたします。

【事務局】

小出部会長、委員の皆さま、ありがとうございました。これで第6回第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画策定作業部会を終了いたします。

第7回作業部会につきましては、先ほどご説明しましたとおり、11月ごろ開催したいと考えています。日程につきまして後日調整させていただきたいと思っております。本日はありがとうございました。